

## ◇学校教育のデジタル化、全児童生徒へのタブレット配布に関して◇

### 1 文科省の二つの位置づけ・・・取材から

○経産省の要請…共有化より個人化を・・・diversity⇒LGBTQ・Xジェンダー

- ・児童生徒上位2割を対象に非常に高い能力(世界をリード)の育成、選別
- ・学習指導要領の制約無視、学年と学級を超える個人の能力育成重視・・・
- ・先進国日本の恒常的向上の維持⇒Sustainable Development Goals, SDGs

○文科省の悲願、現状維持・・・共有化中心、個人化は教育課程と矛盾(評価対象外)

- ・学習指導要領、紙の教科書、検定、無償化、義務教育、学年、学級、学区制、検定・・・維持
- ⇒学区制に基づく公立学校を前提にする限り、個別化と差異化を優先する学校教育は不可能

### 2 多くの教師と教科は・・・タブレットでは子どもたちの学習状況を感じ取れない

- ・教育機器としか使用できない・・・学習内容は検定教科書(紙)に
  - ⇒教材提示、ホワイトボード、映像記録機器
- ・教師の指示によってのみ活用を想定・・・タブレットは図書館と教材提示装置の延長にすぎない
  - ⇒子どもの自由な操作を想定せず
  - ⇒正解は教員のがわに固定
- ・管理職の関心は機器の管理に・・・教科を超える学習内容と方法を教員に強いる意欲と権限なし

### 3 なぜデジタル化なのか

- ★現状の質の高い授業にタブレットの必要性を見出せない
- ★デジタル機器操作とデジタル化された情報のリテラシーの学習の必要性が示されない
- ★現状の学校教育の延長にデジタル化の必要性と実践化の目的、戦略、戦術は想定不可能では
- ★子どもたちが担う社会の想像力とコロナ休校で顕在化した学校の内と外の存立危機への関心の欠如
- ★ダイバーシティ、ゼロカーボン、SDGs、LGBTへの関心の低さ(無知?)、
- ★コロナによる現状の問題の開示・・・職と住の変化と移動、食と医療と介護と保育の社会化
- ★納付と給付、税と保険の制度設計の組み替え⇒労使折半、世帯単位のゆらぎ

- ◆With コロナが強制する現実の改変、その土台となる団塊の後期高齢化と出生数減と単身世帯増の継続、異なる文化に生きる人たちの増加の再開、
- ◆それらの結果生じる税と保険の制度設計の基盤の揺らぎ(喪失?)、この変化に耐えうる社会制度へのシステム転換に不可欠な急速なデジタル化とそれを可能にする法制度の改変、その変化に適合する社会意識と行動様式の改編を求めるダイバシティ・Xジェンダーへの趨勢・・・
- ◆いずれも、日本が先進国の位置、現在の生活を維持 sustainable するために避けて通れない課題・・・